セキュリティ脅威を招く落とし穴（第1回）

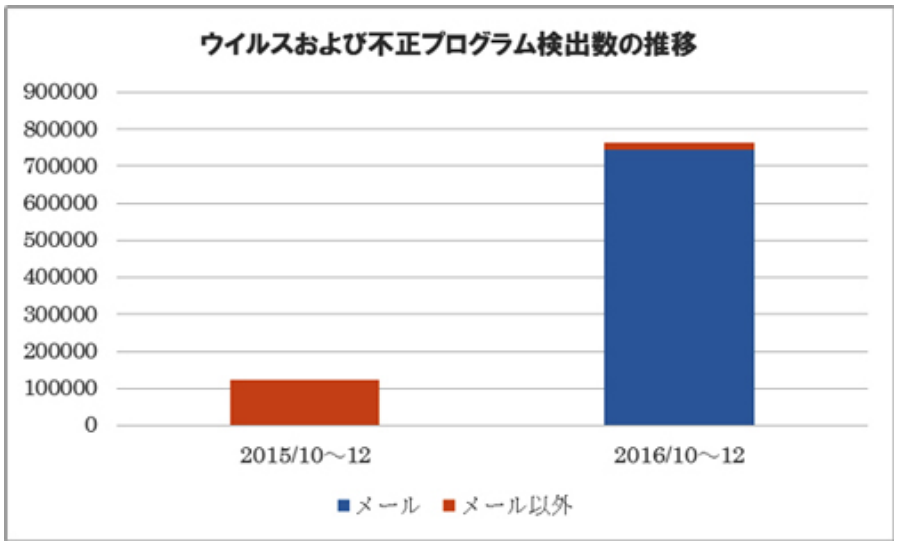
過去からこう変わってきた「解説・脅威の変遷」

2017.09.06

情報セキュリティの脅威は変遷していく。ただし、過去の脅威だからといって対策を怠ると、簡単に侵入を許すケースもある。完全に行われなくなった攻撃手法はなく、今でも過去の攻撃手法が使われているからだ。脅威の変遷を見ていこう。

メール経由の検出数が356倍に

まず把握すべきは、メール経由の脅威の加速度的な増加だ。IPA（独立行政法人情報処理推進機構）の調べ（「コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談状況[2016年第4四半期（10月～12月）]」）では、ウイルスおよび不正プログラム検出数が1年間で6倍以上になっている。2015年10～12月は検出数が12万2099件だったのに対し、2016年10～12月は、76万4280件、約6.3倍である。



出典：IPA「コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談状況[2016年第4四半期（10月～12月）]」図1-6：ウイルスおよび不正プログラム検出数の推移（検出経路別）から数値を引用：グラフはBizClip編集部作成

検出数だけでも驚くほどの急増ぶりだが、検出経路に注目すると、メール経由の攻撃が際立つ。2015年10～12月はメール経由の検出数が2094件だった。わずか1年後の2016年10～12月は、74万6035件と、約356倍になっている。メールの情報セキュリティ対策の重要性が理解できるだろう。

変わる手口… 続きを読む